

2016  
年度

# 南山大学・豊田工業大学 連携講演会

参加費無料

テーマ 「持続可能な社会」について考える

日時 11月20日(日) 13:30~16:00  
(13:00開場)

会場 豊田工業大学 大講義室  
名古屋市天白区久方2-12-1



## 【会場へのアクセス】

名古屋・金山駅方面から 地下鉄桜通線「相生山駅」下車、1番出口から徒歩10分。  
豊田・赤池方面から 地下鉄鶴舞線「原駅」下車、2番出口から  
市バス幹線原1系統(相生山住宅・鳥田一ツ山行き)  
「高坂小学校」下車、徒歩10分。

※若干の駐車場の用意はございますが、出来るだけ公共交通機関をご利用ください。

## スケジュール

- 1 開催挨拶
- 2 連携趣旨と概要・実績等の紹介
- 3 講演1:「資源・環境・エネルギー問題と『水素』」  
豊田工業大学 工学部 触媒有機化学研究室 本山幸弘教授  
講演2:「科学技術とサステナビリティ」  
南山大学 外国語学部英米学科 神崎宣次教授
- 4 質疑応答

## 講演:01

豊田工業大学  
工学部  
触媒有機化学研究室  
本山 幸弘 教授



## 「資源・環境・エネルギー問題と『水素』」

最近、温暖化ガスや資源枯渇、再生可能エネルギーや燃料電池といった言葉を耳にしますが、よくわからないということはありますか？

本講演では、これらの用語を含め、「資源・環境・エネルギー問題」とその緩和への取り組みを解説します。

特に、「化学」や「触媒」の観点から、生活に不可欠な材料の合成やエネルギーの活用に水素を最大限に生かす「水素社会」の実現に向けた取り組みを紹介します。

## 講演:02

南山大学  
外国語学部  
英米学科  
神崎 宣次 教授



## 「科学技術とサステナビリティ」

科学技術がさまざまな環境問題の解決に役に立ち、サステナビリティ(持続可能性)の実現に貢献するのは疑いようがありません。とはいえ、20世紀の中盤あたりの時期には科学技術こそが環境破壊、環境汚染の原因であるとされたことも事実です。この講演では、このような両義的ともいえる科学技術とサステナビリティとの関係について、歴史的経緯をお話した上で、いま私たちはどう考えたらいいのかを、倫理学の観点を踏まえつつ、わかりやすく検討したいと思います。

申込方法

豊田工業大学ホームページの所定フォーム(暗号化SSL対応)からご応募ください。ご応募は、ハガキでも受付可(電話・FAXでは受付けておりません)。いずれの場合も、参加希望者および同伴者(1名まで)の郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、連絡先電話番号をご記入ください。

申込期限

2016年11月6日(日) 必着

定員

200名(参加費無料、事前申込制、応募者多数の場合は抽選を実施。当選者には7日前頃を目途に招待券を送付。)

申込先

〒468-8511 名古屋市天白区久方2-12-1 豊田工業大学渉外広報グループ「連携講演会」係  
ホームページ <http://www.toyota-ti.ac.jp> (ニュース欄より)

お問合せ先: 豊田工業大学渉外広報グループ / TEL 052-809-1764 南山大学学長室 / TEL 052-832-3113